



児童文化センターでボランティア
片貝 進さん・79歳
東片貝町

遊びながら楽しく学んで

一年間で45万人を超える来場者でにぎわう児童文化センター。子どもたちの遊び相手や各種教室の手伝い、情報紙の印刷、施設維持などを、多くのボランティアが支えている。片貝さんもその一人。風車を作る教室や竹馬、輪ゴム鉄砲など昔ながらの遊具を使った遊びを教えている。ただ教えるだけでなく、遊びながら学習してもらうことを心掛けている。

「子どもたちがいろいろ工夫しながら遊ぶことを大切にしています。私が教えるのは、ちょっとしたコツだけなんです」子どもたちの健やかな成長を願う気持ちを常に持ち続けている。一緒に遊んでいる

きは自身も童心に帰っているという。

「子どもたちが上手に風車を作ったときの笑顔を見ると、自分もうれしくなります。そして、しっかりと褒めてあげます」ボランティアを始めて13年。現在約80人いるボランティアの中では経験が一番長い。

「常に目標を持って活動してきたことと、良いボランティア仲間にも恵まれたことが、ここまで続けてこられた理由です」

施設にある遊具の中には片貝さんが作製したものも多い。風車は年間1,000本以上作っているという。そんな片貝さんの活動は、まだしばらく続きそうだ。



楽しさあふれる休日

4月29日、敷島公園で敷島公園まつりを開催。ポート池の無料開放やミニコンサート、野外映画上映など多彩な催しでにぎわいました。魚のつかみ取りでは、狙った魚を捕まえて大喜びする子どもの姿も。訪れた人たちは楽しい思い出をつくりました。



この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第1回はアーツ前橋近くで自然食材や衣料品を扱う店舗「サンデールーム」を営む出仙美秋さんです。

日常を素敵にしてくれる

サンデールーム店長
出仙 美秋さん・35歳



数年前、ある雑誌で初めて津上みゆきさんの絵を見ました。キャンバスいっぱい広がるさまざまな色彩は、まるで蜃気楼

のよう。一気に引き付けられ、いつか津上さんの絵を真っ白な壁に飾ることができたらと願っていました。

今春、サンデールームをリニューアル。たくさんのお客さんや友人の協力で壁を白く塗り直した。ここから徒歩1分のアーツ前橋では6月10日(火)まで、津上さんの風景画が飾られています。願いがかなったようで嬉しく思います。それどころかアーツ前橋で、お客さんだけでなく、たくさんのお客さんと津上さんの作品を見ることのできるのですから、願っていた以上の出来事です。

仕事の合間にエプロンをしたまま、気軽にアーツ前橋に向かうこともあります。そこでアーツに触れると、美しいと感動するだけではなく、何かに気付くことがあったり、リラククスや気分転換になったりもします。館内を出れば、見慣れた景色がどこか変わって見えます。

アーツ前橋は、散歩の途中で素敵な花を発見した喜びのような、毎日の暮らしをわくわく素敵にしてくれるものがたくさん詰まった街の中の美術館。そう思っています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-2300-1144



おもてなしの心でご案内

4月9日から14日まで、市役所1階市民ロビーに、各部長を中心としたフロアマネージャーを配置。市役所に訪れた人たちがスムーズに手続きができるように、担当する窓口へ案内しました。これからも丁寧な案内を心掛けていきます。



鮮やかなツツジが咲き誇る

5月3日から5日まで、敷島浄水場の一般開放を実施。ことしは開放期間に花のピークが重なり、色鮮やかな美しいツツジが満開に。初夏の爽やかな風が吹く穏やかな気候に恵まれ、多くの家族連れなどが、約40種370本の花を楽しみました。